

ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNO.

事業・工事名

シートNO.

ボーリング名		B-3		調査位置				北緯		36° 37' 01.0000"	
発注機関		栃木県宇都宮土木事務所		調査期間		2007-01-25 ~ 2007-01-26		東経		139° 48' 30.0000"	
調査業者名				主任技師				現場代理人		コア鑑定者	
孔口標高		201.88 m		角				方		北 0° 東 90° 南 180° 西 270°	
総掘進長		11.07 m		度		鉛直 0° 水平 90°		使用機種		エンジン	
								ハンマー		落下用具	
								ポンプ			

標尺	層高	厚度	柱状図	土質区分	色	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m)	標準貫入試験				原位置試験	試料採取	室内試験	掘進月日								
											深度	10cmごとの打撃回数	打撃回数 / 貫入量	深度												
(m)	(m)	(m)	(m)							測定月日	(m)	0	10	20	30	(m)	深度	試験名および結果	深度	試料番号	採取方法	試験	月	日		
1				砂利・礫混りシルト (M-G)	暗褐			軟らかく、含水多い -2.7m付近まで礫混り腐植質シルトで砂分含有量多い 下部礫分含有量増す 部分的に砂混り礫状を呈す 礫径10~30mm主体 角礫が多い -1.9m付近に径200mmの巨石混入する				1.15	1	20	15	2	35	2								
2												2.15	1	1	2	4	30	4								
3												3.15				4	30	4								
4	197.93	3.95	3.95	粘土混り砂礫 (GS-C)	暗青灰			含水量多い 径10~30mmの角礫主体 主に砂岩で粘土充填する 目視礫率50~60% 上部粘土分多い 基質は、粘土及び粘土質の粗砂である 礫は砕け易い				3.45	1	1	2	4	30	4								
5												4.15				9	30	9								
6												5.15				8	30	8								
7												6.15	2	2	3	7	30	7								
8	194.63	3.30	7.25	軟岩、風化岩 (WR)	淡黄			凝灰質砂岩が主体 水平・縞状に堆積層理が発達する 層理面沿いに剥離性あり 上部から0.8m位は褐色を帯び風化・変化する 以深短柱状~柱状コアで100%採取される 最大コア長80cm RQD=30~80% コアはハンマーの軽打で容易に砕ける				7.15	4	24	6	50	26	>50								01/25
9												8.00	50	6		50	6	>50								
10												9.00	50	8		50	8	>50								
11	190.81	3.82	11.07									10.00	50	7		50	7	>50								
												11.00	50	7		50	7	>50							01/26	